第２１回ＪＩＡ東海支部建築設計競技「境界空間」

柔らかな建築 ／ 空隙をつくる建築

境界空間 ＝ 日本建築における可変性・一時性

日本建築における境界の曖昧性は、その空間構成が可変性や一時性に繋がっている。

この計画は、日本建築の可変性への着目から始まって、新しい可変性の獲得を目指すものである。

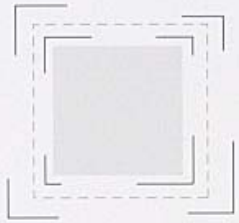
複数の世帯が住まう住宅群を想定し、その住人達の変化に合わせて空間も変化するような「柔らかな」建築。

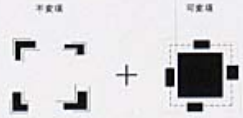
分散する建築群と一時的な空間群

分散する建築群は、それぞれ異なに変形された L 字型の平面をもち、ロの字型ともその字型ともみえる断続的な回廊を形成している。

L 字型の建築群は矩形の外部空間のコーナーのみをつくり、開かれた中庭とでも呼ぶべき空間を生んでいる。

分散した小建築群だけでは住居として成立しないが、それらを補完する柔らかな「一時的な空間群が空隙につくられることで、この建築群は様々な変化を許容する「柔らかな」状況を生む。



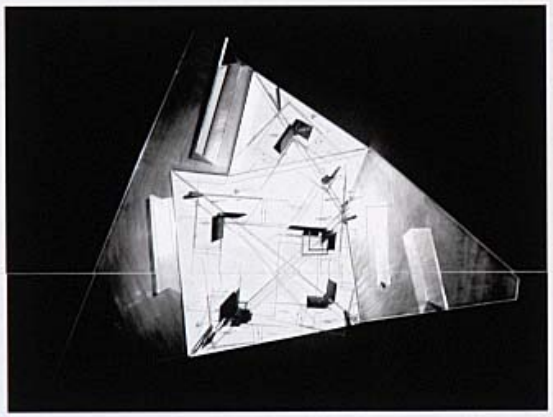


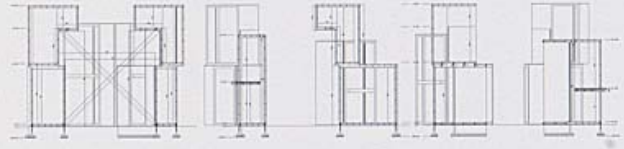
a. 空間が分散する状態

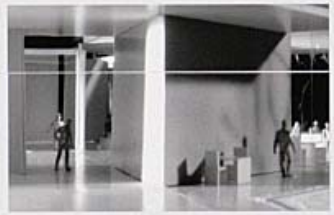
b. 連続する内部空間／分散する外部空間

c. 連続する外部空間／挟まれて取り込まれた外部空間

d. 結合して生まれる大空間

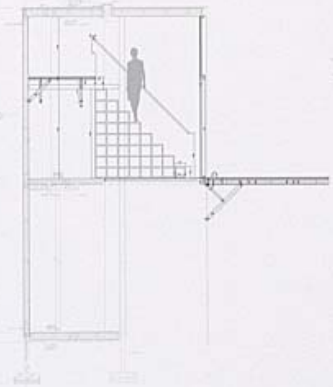
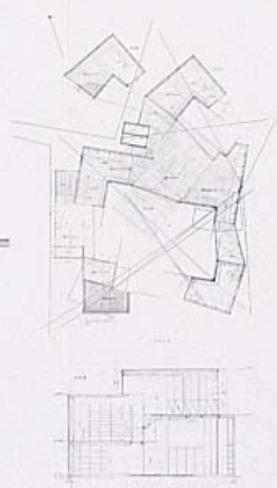






骨格

分散する要素

付加

充填される1次的要素